

会議の実施日時	令和5年10月26日(木) 15:30~17:07 令和5年度 第2回							
次第2 議事 (1) 備北地域医療構想調整会議及び病院・有床診療所部会合同会議 ア 部会長の選任について								
■ 事務局から資料1によって議事(1)アについて説明し、委員の互選により部会長が次のとおり選出された。								
・ 備北地域医療構想調整会議病院・有床診療所部会								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職名</th> <th>氏名</th> <th>所属・職</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>部会長</td> <td>中西 敏夫</td> <td>一般社団法人三次地区医師会会長 備北メディカルネットワーク代表理事 (広島県地域医療構想アドバイザー)</td> </tr> </tbody> </table>			職名	氏名	所属・職	部会長	中西 敏夫	一般社団法人三次地区医師会会長 備北メディカルネットワーク代表理事 (広島県地域医療構想アドバイザー)
職名	氏名	所属・職						
部会長	中西 敏夫	一般社団法人三次地区医師会会長 備北メディカルネットワーク代表理事 (広島県地域医療構想アドバイザー)						
<質疑・意見等> 特になし。								
イ 副部会長の指名について								
■ 会長から副部会長の指名が次のとおり行われた。								
・ 備北地域医療構想調整会議病院・有床診療所部会								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職名</th> <th>氏名</th> <th>所属・職</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>副部会長</td> <td>永澤 昌</td> <td>市立三次中央病院院長</td> </tr> </tbody> </table>			職名	氏名	所属・職	副部会長	永澤 昌	市立三次中央病院院長
職名	氏名	所属・職						
副部会長	永澤 昌	市立三次中央病院院長						
ウ 次期広島県保健医療計画の「外来医療に係る医療提供体制の確保に関する事項」(外来医療計画)についての圏域協議について								
■ 事務局から資料2によって議事(1)ウについて説明し、次回調整会議における協議事項の概要及び書面開催とすることが確認された。								
■ 医療機器の共同利用は馴染みがない人もいると思うので補足させていただくが、CTやMRIなどの高額医療機について、当該機器を所有しない医療機関においても、検査依頼により利用できるようにする取組みのことを共同利用と言っている。ただし、高額医療機器を所有する医療機関に対し、これを強制するものではない。この度の国ガイドラインの改定は、高額医療機器が有効に活用されているかを把握する狙いがあるのだろう。地域で不足する外来医療機能については、前回の外来医療計画策定時には、予防接種は足りているがそれ以外は不足しているとされたが、三次市ではコロナワクチン予防接種を個別接種にできたので、そういう状況だったのだろう。今回も、県が市郡地区医師会や市町にアンケート調査を実施しているが、地区医師会と市町の区割りが一致しないところでは、圏域の傾向が判定できず保留になっていたと聞いている。当備北圏域は、医師会・行政とも同一の区割りなので、アンケート結果について再調整するまでもなく、次回調整会議は書面決議ということで良いと考える。(中西会長・部会長)								
<質疑・意見等> 特になし。								

エ 地域医療構想に係る対応方針（2025プラン）について

■ 事務局から資料3によって、医療機関から提出された地域医療構想に係る対応方針（2025プラン）（以下「対応方針」という）のうち、病床数の今後見通しに関する部分を説明し、続いて出席医療機関から各自の対応方針について報告を受け、全ての対応方針について、地域医療構想の実現に沿うものと認め、備北地域医療構想調整会議として合意することが確認された。※欠席医療機関の対応方針の報告は、事務局が代理で行った。

<質疑・意見等>

○ 市立三次中央病院の建替工事について、計画内容に係る情報公開が少なく心配している。工事開始の遅れから、完成が1～2年遅れるのではないかと心配されている。物価高・人手不足などで建設費用の増額が心配される。市長の考えを受けて病室の個室化を図るとすれば、床面積・階層・総重量の増加などに伴い、相当の建設費の増加が見込まれるのではないかと心配されている。個室化すれば男女別の配慮が軽減され病床稼働率は高くなると言われている。現在は休床を除いて約80%と伺っているが、10～15%高くなるようなら250床でも支障ないのではないかと心配されている。こうした情報が全然流れてこない、病院のホームページにも何も書いていない。併せて心配なのが、どこの医療機関でも看護師不足が言われている中、新病院の看護師数は、305床で試算して65名程度の増員が必要と言われている。現在でも約20名不足しており、毎年20～30名の看護師が離職していることを考慮すれば、新病院開設時には120名の増員が必要になるのではないかと心配されている。この数字は、三次市議会の9月定例会で、病院側の担当者が答弁されたものである。現実的に可能な看護師の増員数と、個室化による病床稼働率上昇などを考慮し、病床数を305床から減らすことは可能と考えるのがいいか。（安藤委員）

○ 将来的には安藤委員の指摘されるように動きがあると考えられるが、病院が独自に判断できることではなく、現在は議会や市役所、在り方検討委員会で議論・検討がされているところなので、病院としては検討中以外にお答えできるものがない。決定していないことをホームページに掲載することもできない。御理解いただきたい。（永澤委員）

■ 県が進める「高度医療・人材育成拠点基本構想」では、新病院について知事発表や基本設計をはじめ情報が色々出ているので、三次の方はどういう風になっているのか疑問に思う方もいるだろう。一番強く感じているのは院長だろうと思う。もっと具体的な基本設計ができないと建設費の概算を示すのは難しいところ。県の新病院は総事業費1,300億規模と公表されたが、さらに膨れることも十分在り得るのではないかと心配されている。市立三次中央病院においても、皆様にお力添えをいただきたいというのが、院長の本音ではないかと勝手に推測させていただいた。（中西会長・部会長）

オ 総合病院庄原赤十字病院の病床再編計画について

■ 総合病院庄原赤十字病院から資料4によって議事(1)オについて説明し、病床再編計画が、地域医療構想に沿ったものであることが確認された。

<質疑・意見等>

■ 少し心配になるのが、病床削減を図ったとしても新たに整備する緩和ケア病床の看護単位は7対1なので、看護師確保については厳しくなるのではないかと心配されている。一般病床としても利用するというような考えもあるのだろうか。（中西会長・部会長）

○ 御指摘のとおり、緩和ケア病床は7対1ということで看護師の必要数が多く、看護師

が中々集まらない厳しい状況の中で、回復期の病床として使用するケースも出てくると考えている。今後、可能な運用を検討・調整していくことになるが、楽観はしていない。
(中島委員・副部会長)

- 可能な限り緩和ケア病床として運用していただくことを期待している。本日出席された皆様も、看護師の確保をしっかりとやっていかないといけないと実感されたのではないか (中西会長・部会長)

カ 高度医療・人材育成拠点基本計画について
キ 令和4年度病床機能報告の状況(確定値)について

- 事務局から資料5～7によって議事(1)カ～キについて報告した。

<質疑・意見等>

議長判断によって省略した。

※出席委員のわかるものを添付してください。

※報告書は複数枚になっても構いませんが、各協議の内容について項目の整理をお願いします。

※参考となる資料があれば、併せて提出してください。